

*** 一戸直蔵著書「趣味乃天文」(その1)**

この本は、理学博士 一戸直蔵 著 「趣味乃天文」 現代之科学社蔵版 といい、一戸直蔵の「星」という本の改訂版で、大正5年に発行されている。彼は天文の啓蒙書として何冊も一般向けに天文学の解説本を書いているが、「星」という表題では専門家向きと思われるので改題して書き直したそう。口絵に北天・南天の星座の図がある。これがなかなかおもしろい。図1が北半球、図2が南半球である。



南 半 球



图 2

内表紙は图 3

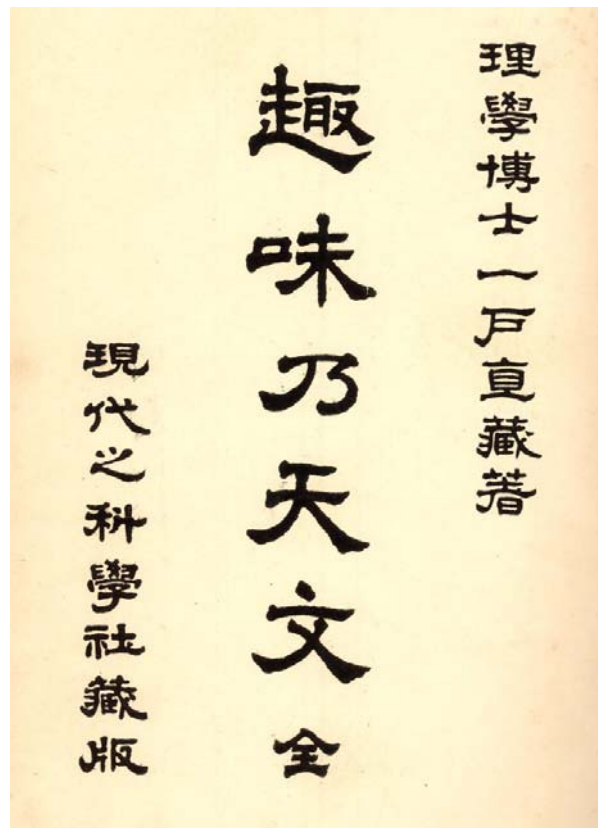


図 3

以下に緒言を紹介する。

緒言

1. 本書は元来明治43年余が「星」と題し出版せるものにして専門家の参考としたるものならぬは言うまでもなし。其重なる目的は、吾等の夜々望む天空は至て趣味あるものにして、何人も相応に甘美を楽しむ得可く且絶えず一種の教訓を受け得るものなるを明にせんとするにあり。今之を全部大に削正して之を公にするに際し書名を余り適切ならざるを思ひ、「趣味の天文」と改題せり。
2. 如何なる美術如何なる音楽も、其趣味を解し得る為めには、予め之が素養を要す。少くとも其概念丈を会得し置かざるべからず。天文之夫れ自身は一大美術なりとするも、矢張り同様なり。乃ち自ら之を会得する新法を創見するよりは、一般の人々に取りては過去の因襲によるを便とす。乃ち此著ある所以なり。
3. 故に本書は、天空を望む時の道案内たらんことを期せり、而かも道中記中には種々の熟語を含有するが為め、最初に是等の熟語につきて星辰天文学の初歩を記載し、更に転じて案内記に及べり。
4. 案内記には普通地図を添ふ、是れ実地と照し合さんが為めなり。本書にも至て簡単なる2葉の図を附せり、されど之れ大略を示すまでにて、更に詳細なる恒星図を座右に具ふるに非ざれば、天文を楽しむ上に不備なり。此目的に必要なるは小倉理学士の「星の図」を始め現代之科学第2巻に連載せる同学士の恒星図なり。

5. 本書は恒星のみを説きて惑星其他太陽系のものに及ばず、独り太陽のみは其性質恒星に外ならざるを以て特に1章を設けたり、乃ち読者は太陽によりて星を解し得可く、星によりて太陽を解し得可し。
6. 本書記述せる所、大概著者自身の経験を基とせるものにして、時に普通の方法と異なるあり。南天のことは永き経験なきを以て大に不備なり、若し期を得れば他日経験を積みて削正せんことを期す。
7. 本書を改題せるが為め或読者が同一の書を無益に買求めたりとの不平あらんを恐れ、茲に特に本書は前の書と似たるも幾多の削正を経たる為め同一のものにあらざることゝを述べ。且つ又其改題なることは凡ての広告に明かにせんと欲す

大正5年4月

著者識

以下目次である。読んでみたい気が沸き立ち、わくわくするではないか。

<p>趣味の天文 の運命</p> <p>第二章 星の等級 の等級—星の總數</p> <p>第三章 星の等級 の等級—星の總數</p> <p>第四章 變光星 變光星の種類—新星—鯨座ミラ星—アルゴール—琴座β星—ケフェウス座β星—ヘルクス座α星—變光星觀測法—比例の法—ヒケリングの方法—アルグランダルの方法—光階—變光曲線—變光星の觀測に關する注意</p> <p>第五章 新 星 アルゴ座γ星—タイコ星—ケプレル星—北冠座新星—北冠座新星のスペクトル—ペルセウス座第二新星—ペルセウス座第二新星のスペクトル—ペルセウス</p>	<p>趣味の天文目次</p> <p>第一章 天空に於ける星の運動……………一—五</p> <p>天空の觀察—天空の大—天球—地球の運動と星—兩半球の天—地球の自轉—地球の自轉運動に伴ふ星の見掛けの運動—恒視圈—恒隱圈—地球の公轉と星の見ゆる部分—黃道—獸帯又は黃道帶—獸帯の十二星座—二十八宿—恒星—固有運動星</p> <p>第二章 星のスペクトル……………二—六—六</p> <p>天體物理學—分光器—スペクトル—日光のスペクトル—スペクトル分析法—スペクトル分析法の基礎—星展開展論—星雲のスペクトル—第一型のスペクトルを示す星—太陽素星—水素系—第二型—太陽星—第三型—第四型—炭素星—特殊のスペクトルを示す星—ウルファライエ星—生成環境—太陽</p>
---	---

座新星周囲の星雲——新星の現はるゝ原因——シーリゲルの説

第六章 星雲と星團

アンドロダ座大星雲——星團——星雲と星團とは同種類のものにあらず——星雲のスケトル——星雲素——星團内に於ける個々の星の運動——星團變光星——星團中の星の種類——銀河と星雲及星團との關係——星雲の距離及大さ

第七章 重星及連星

伴星——主星——見掛上の重星——連星——大熊座 ϵ 星——琴座 ϵ 星——重星の數——クワンタウルス座 α 星——シリウス β 天狼——小犬座 α 星——分光器的連星——連星の週期

第八章 北の天空(其一)

北極星——北斗七星——星座——北半球の星座の名稱——南北半球に跨る星座の名稱

意味の天文

稱——南半球の星座の名稱——星の名稱——バイエル式——希臘文字——フラムステド式——大熊に關する神話——大熊座 ζ 星——大熊座W星——北極星を見出す便法——小熊座——カシオペイア座——神話——カシオペイア座新星——ケフェウス座——ケフェウス座 β 星——ケフェウス座の星——ケフェウス座 μ 星——龍座——龍座 α 星——黃道の極

第九章 北の天空(其二)

ペルセウス座——アルゴール——變光星ペルセウス座 ρ 星——ペルセウス座大星團——ペルセウス座新星——神話の勇士ペルセウス——アンドロメダ座——アンドロメダ座大星雲——新星——アンドロメダ座 γ 星——R星——蠍座——白鳥座——神話中の白鳥——白鳥座第六十一星——恒星の距離の最初の測定——白鳥座の變光星 α 星——SU星——X星——W星——白鳥座新星第一ジャンソン星——白鳥座最近の第二新星——北アメリカ星雲——琴座——グエガ——南半球の天——琴座 ϵ 星——變光星琴座 ρ 星——R星——琴の環状星雲——琴と神話——ヘルタレス座 α 星——U星 β 星X星

連星——三重星 γ ——大星團メーア第十三號——太陽星團——神話の勇士ヘルタレス——北冠座——新星——北冠座T星——變光星北冠座R星——神話と北冠——牧羊座——アルタチユラス——神話——獵犬座——髮座——山猫座

第十章 黃道帶及其近傍の星座

黃道帶——牡羊座——三角座——重星牡羊座 γ 星——神話——牡牛座——プレアデス——神話——ヒアデス——變光星 α 星——神話——オリオン座——オリオン座大星雲——變光星W星——神話——駝者座——神話——カペラ——駝者座新星——著者の讀者諸君に對する希望——双子座——神話——四連星としてのカストル——變光星 ζ 星—— γ 星——星團——蟹座アレクセベ——三連星 ζ 星——神話——小犬座—— α 星—— β 星——獅子座——獅子座流星群——變光星R——神話——乙女座スパイカ——秋分點——連星 γ 星——星雲の密聚——神話——コツプ座——鳥座——天秤座——變光星 δ 星——蠍座—— β 星——ハーシエル——蠍座新星——神話——蛇道座——蛇道座第一新星又はケブレル星——第二新星——神話——射手座——三裂星雲——日次

意味の天文

神話——桶座——桶座R星——蟹座—— γ 星——神話——矢座—— ϵ 星——S星——小狐座——砲鈴星雲——小狐座新星——T星——山羊座——水瓶座——土星星雲——小馬座——海豚座——ベガス座——魚座——春分點——神話——鯨座——神話

第十一章 南半球の天

エリダヌス座——エリダヌス座 α 星——アケルナル——I星——第三十二星——神話——瓶座——鳩座——大犬座——シリウス——シリウスと埃及人——シリウスの伴星——R星——一角獸座——變光星T星——S星——U星——重星の色——海蛇座——神話——R星——六分儀座——コツプ座——鳥座——神話——ケンタウルス座—— α 星——光年——ケンタウルス座の α 星——祭壇座——孔雀座——印度人座——顯微鏡座——南冠座——南魚座——鶴座——巨嘴鳥座

第十二章 南極近傍の天

六二五

八分儀座——風凰座——小海蛇座——小マゼラン雲——旗魚座——大マゼラン雲アル
ゴ座——カノプス——イ星——リ星——十字架

第十三章 銀河

アマノガハ——銀河の形状——銀河とガリレオ——銀河の肉眼観察——石炭叢——銀
河中に現はるゝ星辰界の現象——シーラゲルの説

第十四章 太陽

太陽は星なり——星は太陽なり——太陽の研究——ウイエルン山太陽観測所——太陽
の大きさ——黄道——太陽の自轉——黒點——三才圓會の太陽——黒點の外観——黒點
の大きさ——黒點と太陽の自轉——分光器と太陽の自轉——シュワーベ氏の研究——太
陽活動の週期——マウンダーの研究——白紋——變光星としての太陽——黒點のスペ
クトル——黒點の構造——光球——反影層——太陽の成分——閃光スペクトル——色
球——太陽素——紅燭——分光太陽寫真儀——カルシウムの雲——羊毛斑——カルシ
ウム

趣味の天文

ウム雲の上層と下層——水素羊毛斑——神話——コロナ

趣味の天文目次